

## EZ アクセス橢円タイプと多自由度内視鏡手術鉗子 Radius Surgical System を用いた単孔式腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術

産業医科大学 第1外科<sup>1</sup> 第3内科<sup>2</sup>

柴尾和徳<sup>1</sup>、渡邊龍之<sup>2</sup>、久米恵一郎<sup>2</sup>、井上讓<sup>1</sup>、佐藤典宏<sup>1</sup>、日暮愛一郎<sup>1</sup>、芳川一郎<sup>2</sup>、山口幸司<sup>1</sup>

[はじめに] これまでに 480 例の単孔式内視鏡外科手術 (TANKO) を経験した。安全な TANKO のためには、臍部小切開でよりトロッカー間隔が広く確保できるプラットフォームが有用であるため、われわれは EZ Access 橢円タイプ (八光) を開発し、現在までに 70 例で使用した。EZ アクセス橢円タイプと多自由度内視鏡手術鉗子 Radius Surgical System (Radius) を用いた単孔式腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術 (LECS) について報告する。[対象と方法] 噴門部近傍の胃粘膜下腫瘍に対して LECS を単孔式で行った 3 例。胃壁欠損部は 2 例で Radius を用いた Gambee 縫合により閉鎖し、1 例では自動縫合器を用い閉鎖した。[結果] 平均腫瘍径: 34mm、局在: U, Less: 2、U, Gre: 1、平均手術時間 192 分、平均術中出血量 5ml、開腹移行例なし、術後の通過障害なし、合併症なし、平均術後在院日数は 7 日であった。EZ Access 橢円タイプは、鉗子の干渉、triangular formation の狭小化を回避でき、有用であった。また、Radius は、通常腹腔鏡下手術に比べ角度制限が厳しくなる RPS において先端が自在に屈曲するため縫合、結紮に有用であった。Radius を用いた 2 症例では、手術時間は延長したが、(215 vs. 171 分) 自動縫合器を用いた症例に比べ余剰切除胃壁が少なかった。[結語] EZ アクセス橢円タイプと Radius を用いた単孔式 LECS は整容性の確保とともに、より安全な欠損部の閉鎖と残胃の変形の最小化を可能とすると考えられた。